

業績表彰一覧

No.	標題	個人名/組織名	推薦者	概要	効果	部門				
						発信・表彰	市民協創	チャレンジ	災害支援・善行	地域貢献
						6	4	9	2	1
1	広報いこま「いこまち」9月号 第32回近畿市町村広報紙コンクール 優秀賞1席受賞	市長公室 広報広聴課	広報広聴課 課長 金子 雅文	「このまちが、もっと好きになる」をテーマに毎月1回発行。行政情報だけでなく、市民の皆さんに地域のことを知っていただくため、市民主催のイベント情報も積極的に掲載しています。 また、まちの課題解決や活性化、地域の魅力発見・発信、シビックプライドの醸成を目的に、特集や連載コーナーの充実にも取り組んでいます。	広報いこま「いこまち」9月号が、毎日新聞社・毎日文化センターが主催の「第32回近畿市町村広報紙コンクール」で、最優秀賞に次ぐ優秀賞1席を受賞しました。 (賞の内訳:最優秀賞1件、優秀賞1・2・3席各1件、優秀賞7件、優良賞10件、奨励賞4件)	○				
2	「生駒山上遊園地の夜景」の「COOL JAPAN AWARD 2019」受賞を機に積極的にPR	商工観光課	商工観光課 課長 奥田 茂	2019年5月27日に、一般社団法人クールジャパン協議会主催の外国人目線で日本の埋もれた魅力を評価するCOOLJAPANAWARD2019において、「生駒山上遊園地の夜景」がインバウンドカテゴリで受賞した。これを機に市と近畿日本鉄道(株)が連携して内外に積極的にPRを進め、「生駒山上遊園地の夜景」のブランディング化に向けた活動を開始した。	市の主要な観光コンテンツである「生駒山上遊園地」の90周年と「生駒ケーブル」100周年と連動するタイミングでの受賞であり、それを機に、従来のファンのみならず、近年増加傾向にある外国人観光客へ向けた魅力の発信に大きく貢献しました。	○				
3	保育コンシェルジュ	教育振興部 こども課 保育幼稚園係	教育振興部 次長 坂谷 操	保育所の待機児童の解消および子育て支援の一環として、子育て家庭の「個別ニーズ」を把握し、教育・保育施設及び地域子育て支援事業等の利用に当たっての「情報集約・提供」「相談」「利用支援・援助」を行っている。	保育サービスに関する総合窓口として、5月から12月末までで465件の相談対応を行った。また、県内初の取り組みとして、メディアにも取り上げられ、「子育てしやすいまち生駒」をアピールできた。テレビ放映3回、新聞・冊子掲載4紙	○				
4	秋の火災予防運動ふれあいフェスタによる消防広報	消防本部 秋の火災予防運動ふれあいフェスタ 実行委員及び参加職員	消防本部 消防吏員 消防本部次長 川端 信一郎	秋の火災予防運動の取り組みとして「救急車適正利用」及び「住宅用火災警報器設置促進」の啓発を目的に、令和元年11月10日に消防署北分署にて「秋の火災予防運動ふれあいフェスタ」を開催し、昨年度を大きく上回る約500名の来場者数があった。また、ラグビーワールドカップで話題になったハカを模して取り入れるほか、様々な方法で広報した。	生駒市消防本部公式Twitter及びFacebookに掲出したことをきっかけに、YahooJapan「ThePage」で取り上げられるなど、SNS等の拡散により「救急車適正利用」及び「住宅用火災警報器設置促進」に対する生駒市消防本部の取り組みを広報することができた。	○				
5	令和元年度全国消防長会東近畿支部消防技術研修会 優秀賞	生駒市消防署救助第2係	消防署本署 消防吏員 署補佐 久保 大寿	令和元年9月26日に京都市消防活動総合センターで開催された、令和元年度全国消防長会東近畿支部消防技術研修会に出場し、優秀な成績を収めた。	訓練結果について優秀な成績を収めたことは、士気の向上、技術力の向上、他の隊員の模範となる。	○				
6	第38回奈良県消防長会 消防職員意見発表会 優秀賞	消防署本署 消防吏員 橋富 帝人	消防署本署 消防吏員 署補佐 赤土 吉孝	平成31年2月13日、第38回奈良県消防長会消防職員意見発表会が実施され、発表者は、県内消防本部から選抜された10名の消防職員で、職務を通じての体験、業務に対する提言や取り組むべき課題等について発表しました。	「防災パイキング」という演題にて発表し、内容や表現力について、各消防長及び外部審査員で構成された審査員により厳正な審査が行われ上位3名のうちの最優秀賞に次ぐ「優秀賞」を獲得したものである。	○				
7	いこまとりっぷ	地域活力創生部 いこまの魅力創造課	いこまの魅力創造課 課長補佐 大垣 弥生	生駒暮らしの魅力を体感しながら、人と人がつながるお出かけツアー「いこまとりっぷ」を初開催した。ツアー企画や案内は、市民PRチーム「いこまち宣伝部」の有志が担当。お店の人や作り手と話しながら、生駒で暮らす温かな人やコミュニティに触れ、特別な体験や新たな出会いを楽しめる趣向をこらした3コースを提供した。	年内に実施した2本のツアーは参加者満足度100%。全員が「生駒にまた来たいと思った」と答え、単なる体験型ツアーではなく、人と人の交流に重きを置いたことが、生駒ファン獲得につながったと考えられる。1月・2月に実施の「人気陶芸家と作る器でhyggeなひととき」は定員10名に対して応募総数94名。青森や愛媛、岐阜からも応募があり、市の観光施策への活用も十分検討できる。	○				
8	認知症施策の推進	地域包括ケア推進課	福祉健康部 次長 田中 明美	道に迷って帰れないなど認知症の方が行方不明になったという設定のもと、認知症高齢者の発見、声かけ、保護などの訓練を通して、地域住民がそれぞれの役割を理解し、認知症の高齢者への接し方を学んでいただくことで、事故を未然に防ぐことを目的として開催する訓練。若手職員が地域包括支援センターとともに当該自治会役員と調整して開催し、認知症に関する普及啓発及び地域の見守りネットワークの構築に努めている。	訓練当日は訓練の前に「認知症サポーター養成講座」を同時開催することで、認知症に関する正しい知識の理解を進めた上で実技としての訓練を実施している。実施自治会においては、実際に行方不明者を発見するなど人命救助を行っていたり、認知症ステップアップ研修の開催や認知症カフェの立ち上げにつながるなど、訓練をきっかけとして、地域の住民力により、我々の想定以上のネットワーク構築に繋がっている。	○				
9	地域の将来を地域みんなで考えるワークショップ 萩の台ミライ会議	都市整備部都市計画課(計画係・住宅政策室)	自薦	少子高齢化、人口減少社会を迎え、地域独自の特性を活かした住民主導のまちづくりがますます求められる。本課においては、その地域での住まい方や暮らし方に重点を置き、地域住民自ら地域の将来を考えるワークショップ(ミライ会議)を開催している。今年度は、伝統や歴史資源が多く残り、今後も魅力に富んだまちとしての発展が期待される萩の台地区(旧乙田地区)で開催している。	これまでに2回ワークショップを開催し、地域の魅力や惜しい点、地域の特性を活かしたプロジェクトの発案、実施など、それぞれ若男女25名の参加があり、地域住民が改めて自分達のまちについて話し合い、多世代が交流できる場となっている。	○				
10	市民自治協議会との協創「朝活読得会」	生涯学習部 図書館	自薦	平成30年度のワークショップで提案された「図書館がある地域の特性を活かしたまちづくり」をもとに、中地区健康まちづくり協議会と図書館が、開館前の図書館を利用して、地域住民の健康のサポートを目指す活動。8月1日から毎週木曜日、図書館(本館)に集まり、ラジオ体操、呼吸法や歌、朗読などを行っている。	【参加実績】 オープニング 85人 8月から毎週木曜日実施 24回 のべ794人参加 (令和2年1月10日現在)1回平均33人 高齢者の健康問題や、居場所づくりといった地域課題の解決の一助となっている。	○				
11	コンビニ交付率全国1位	市民課	市民課 課長 藤本 清夫	平成23年4月から住民票の写し等のコンビニ交付サービスを開始した。その後全国で初めて戸籍証明書や住民票記載事項証明書の交付サービスを開始し、また、生駒市以外に居住していても戸籍証明書が取得できる本籍地証明書交付サービスを開始するなど、全国に先駆けて様々な取り組みを行っている。また、コンビニ交付を利用するためにはマイナンバーカードが必要となるため普及促進に努めている。	平成29年度・平成30年度に引き続き令和元年度上半期においてもコンビニでの人口1人当たりの証明書交付率が全国1位となった。			○		

業績表彰一覧

No.	標題	個人名/組織名	推薦者	概要	効果	部門				
						発信・表彰	市民協創	チャレンジ	災害支援・善行	地域貢献
12	ふるさと納税を活用し、野良猫の避妊・去勢手術を全額支援「生駒市は、猫の殺処分ゼロを宣言します！」	市民部 環境保全課 保全係	市民部 部長 奥田 吉伸	ふるさと納税によっていただいた寄附を活用して野良猫の避妊・去勢手術を市が全額を負担する取組を10月1日から開始し、野良猫の繁殖を抑え地域の環境被害を軽減しながら殺処分ゼロを達成する「猫の殺処分ゼロの街いこま」を目指し、動物病院や地域ねこ活動サポーター、地域の皆様と協働による様々な取組を進めた。	市内9動物病院と避妊・去勢手術に関する委託契約を締結し、地域や指定動物病院として連携を進め15頭の手術を実施した(11月末現在、申請数56頭)。また、猫の飼い方や地域ねこ活動に関するパンフレットを作成し、猫の適正飼養について一層の啓発活動を行った。			○		
13	国道163号バイパス清滝生駒道路事業における「用地国債制度」を活用した国道事業用地の先行取得	事業計画課 (生駒市土地開発公社事務局)	事業計画課 課長 駒井利人	「用地国債制度」を活用し、国との「用地の先行取得に関する契約」に基づき、市公社が事業用地の先行取得を行っている。買収に要した費用は国から4年間で償還される。	国に対し、生駒市の協力姿勢をアピールすることで国の予算を確保しやすくなり、事業進捗の加速化が見込め、現国道163号の交通渋滞の解消、学研高山2工区の発展、2025年大阪万博へのアクセス向上、大阪から京都までの所要時間短縮にも期待できる。また用地国債事務においては、国からの事務費を得ることができ、市の財政面にも寄与できる。			○		
14	生駒ならではのリノベーション・中古住宅活用事例を発信	都市整備部 都市計画課 住宅政策室	自薦	地域の特徴を活かしたライフスタイルの実現や中古住宅の質を向上させるリノベーションを後押しするため、本市ポータルサイトgood cycle ikomaに「いこまのすまい」のページを追加。生駒の風景や雰囲気を活かして中古住宅をリノベーションし、自分たちが求めている住まい方を見つけたご家族を紹介している。また、紹介事例にある住まい手と設計者によるリノベトークセッションも開催した。	「いこまのすまい」は、掲載開始後数ヶ月でPV(ページビュー)数を確実に伸ばしつつあり、閲覧者の滞在時間は平均3分以上と長く、各記事が時間をかけて読まれている。また、トークセッションの講演者と参加者、参加者同士の繋がりが今も広がつつあり、DIY・リノベーションへの関心も高まっている。			○		
15	ふろーらむの多様な活用	都市整備部 花のまちづくりセンター	花のまちづくりセンター 所長 大神 勝文	これまでの花と緑に関する利用に加え、新たな子育て世帯、高齢者、障がい者なども集える地域コミュニティの場としての活用、市民との協創を図り、ガーデンパーティの他、芝生広場等でマルシェを開催するなど、より広い用途に活用するよう取り組んでいます。	ふろーらむの庭を鑑賞しながら、カフェボランティアによるランチ等を味わうガーデンパーティの開催により、花好き市民が交流し、情報交換する場を提供できました。また、芝生広場を市民グループ等に貸し出し、マルシェ開催や子どものお絵かきイベントに活用していただき、直接車道に面しておらず、目が行き届きやすいこともあり、安心して利用できると子育て世帯に好評でした。			○		
16	小瀬・滝寺送水ルート変更、谷田浄水場廃止事業	上下水道部(上水道部門)	工務課浄水場 主任 乾 宏次	生駒市水道事業では、平成25年度から効率的な施設更新として、県営水道施設の有効利用を図る等の手法により、施設の新設や送水ルートの変更を行ってきました。その最終工程となります新小瀬中継所建設工事が平成31年2月に完成して同年3月に谷田浄水場を廃止し、標記送水ルート変更事業が完成いたしました。(総事業費約7億円) この事業により、施設更新費用約18億2,000万円と動力費年間約2,300万円の削減が見込めます。	令和元年度11月末までの8ヶ月間における、小瀬・滝寺送水ルート変更、谷田浄水場廃止事業による動力費削減効果は前年度比で約1700万円(約110万kwh削減)となっており、年間に換算すると約2600万円(約160万kwh削減)となります。			○		
17	統合型校務支援システムによる働き方改革の推進	教育指導課 指導係 指導主事 花山 浩一	教育指導課 課長 城野 聖一	平成31年4月からあすか野小学校、大瀬中学校をモデル校として統合型校務支援システムを導入し、運用を開始した。令和元年9月から市内全小中学校においても運用を開始した。	あすか野小学校、大瀬中学校においては、学期末の通知表作成に当たり、手書きの作業が少なくなったので、作成時間が短縮された。9月から導入の学校においても、グループウェアを活用することで、連絡事項の共有が図れたり、会議資料の事前配布により会議時間を短縮できたりといった効果が現れている。			○		
18	全国初！夫婦できくトリプルP 前向き子育てセミナー	教育振興部 子育て支援総合センター支援係	子育て支援 総合センター 所長 辻本 多佳子	トリプルPとは「Positive Parenting Program」(前向き子育てプログラム)の略称で、オーストラリアで開発され、現在25カ国以上で実施されている親向けの子育て支援プログラム。これまでは、父親のみ・母親のみを対象としたセミナーを開催していましたが、初めて夫婦での参加型で、参加していただきやすいように日曜日に託児付で開催し、定員をオーバーする申し込みがありました。	＜参加者の声(抜粋)＞ ・夫婦でこのようなセミナーに参加することが初めてだったので、夫婦で話す場面もありいい機会になった。 ・夫婦で聞くことで、2人で同じ内容を共有できるのが良かった。			○		
19	事業者と連携したプロ人材の採用	人事課	市長公室 市長公室長 増田 剛一	人材採用・入社後の活躍支援を担うエンジャパン株式会社と連携協定を締結し、7つの分野について専門性を持つ官民のプロフェッショナル人材の採用を行った。	これまでの採用広報では情報が届かなかった転職潜在層や公務員に関心がなかった方々に周知できた結果、1,000人を超える応募があった。			○		
20	長野県佐久市へ災害応援職員として派遣	みどり公園課 主幹 高橋直紀 都市計画課 主幹 矢島 延治 管理課 技師 室井良介 事業計画課 技術員 早瀬 裕一	総務部 危機管理監 澤井 宏保 みどり公園課 課長 財満 直也 都市計画課 課長 有山 将人 管理課 課長 西岳 由浩 事業計画課 課長 駒井 利人	【矢島/早瀬】令和元年11月17日(日)～11月24日(日) 【高橋/室井】令和元年11月24日(日)～11月30日(土) 長野県佐久市において台風19号で被災した市内の河川や道路、農地等の被害調査及び測量業務を行いました。	被災地では河川や農地の被害件数が多く、土木技術職員が不足している状況となっていました。土木技術の資格を持った職員を派遣することにより、被害状況を迅速に把握し、市民生活に多大な影響が生じる道路等の復旧につなげることができました。また、この経験が本市の災害対応業務の大きな力となることを期待できる派遣となりました。			○		
21	栃木県佐野市へ災害応援職員として派遣	防災安全課 主任 宮崎 裕也 事務員 石津 智子	総務部 危機管理監 澤井 宏保	【宮崎】令和元年10月28日(月)～11月1日(金)【石津】令和元年10月28日(月)～11月2日(土)河川の氾濫で被災した栃木県佐野市において被災家屋の被害認定業務を行いました。	迅速な罹災証明の発行につながる被害認定業務を実施することにより、佐野市の被災者に対して一日も早い復興に向けての一助となった。また、実際に被害認定業務を経験し、被災地や現地の対策本部を肌で感じる事ができたことは本市の災害対応業務の大きな力となる経験ができました。			○		
22	#学園(そと)祭	人事課 主任 稲葉 淳一	人事課 課長 鎌田 明年	平成31年4月6日、ユースネットいこまにて、職務時間外の活動として、学校に行くのがしんどい子どもたちと、いつまでも子どもの心を持った大人たちによるイベント「#学園(そと)祭」を行いました。約半年かけて準備を行い、各メンバーのやりたいことや特技を取り入れた悪ふざけたっぶりの演劇を当日披露しました。	学校のそとで、学校ではできないものを、子どもと大人が一緒に作り上げる過程において、メンバー同士が徐々に絆を深めていき、毎回の打ち合わせの場がメンバーにとっての心地よい居場所となったことが何よりの取組効果です。このイベント終了後、スピンオフ企画「#学園(そと)体育祭」を行うなど、現在も仲良く遊んでいます。				○	